

良城小だからこそ避難訓練の必要性

水曜日の職員会議で、24日の土曜参観日に実施する児童引き渡し訓練の詳細な計画が出されました。

保護者への引き渡し訓練は、熊本での地震を受けて、教育委員会から指導があり、昨年度から全県的に実施されています。

保護者へ児童を直接引き渡すという状況は、非常に差し迫った状況に限られます。一般的な事案では、教職員や地域の見守り隊等が引率しながらの集団下校が通常に対応でしょう。

引き渡しが想定されるのは、授業時間中に校区内で発生し、犯人がまだ近隣に潜んでいる可能性がある凶悪事件や、大きな被害（地震や土砂災害等）が発生、またはその危険性が高い場合です。

これらの危機的状況下での引き渡しは、現実的には徒歩で帰ることはないと思います。

その点で、前回及び今回の本校の引き渡しの方法は、やや曖昧な方法です。これは、本校運動場への車の出入りが現状では困難であるという事情があります。

しかし、そのために良城小の児童と保護者を不安にさせることはできません。施設的な不備は、市に改善をしてもらわなければなりません。

現在、もう1カ所の出入り口の設置を要望していますが、これを是非とも実現し、その上で、現実的で安心な引き渡し訓練を行っていきましょう。

できる限り本年度中に出入り口を設置し、来年度は、自動車による引き渡し訓練を実施したいと考えています。

しかし、問題は、地震や土砂災害など、大災害が起こった場合の対応です。熊本の地震発生の際には、多くの人が学校に避難してきました。熊本地震の発生は、最初が

夜9時、2度目が深夜1時と、授業時間中ではありませんでした。もし、授業中であつたなら、校舎は耐震化のおかげで崩れはしなくとも、物は倒れガラスは割れ、運動場に避難した後は校舎には戻れないでしょう。

その状態での保護者への引き渡し（しない方が安全の場合もありますが）は、運動場での並び替えが必要です。

さらには、同時に地域の方々の避難も始まり、教員全てが児童につくこともできないかもしれません。

これら様々なことを想定した訓練も必要です。この場合は、警察や地域との協議も必要です。再来年は、この様な想定での避難訓練の実施も行いたいと思います。

吉敷地域は、吉敷川、木崎川、山地、大原湖断層系の吉敷川断層が存在し、非常に危険な地域でもあります。

今後は、これらを想定した吉敷だからこそその避難訓練を考えていきましょう。

同時に、防災教育にも力を入れていきたいと考えます。防災教育は、理科、社会、道徳と直接の関わりもありますし、総合的な学習の時間の題材としても最適な分野です。必然的に、地域との関わりもあります。

防災教育は、災害の危険性の高い吉敷地域だからこそその学習だと思えます。

一度に進めることはできませんので、今後少しずつ進めていきましょう。

※ 上東マックスバリュー前の公園周辺に、吉敷川の氾濫を防止する巨大な地下貯水池が建設中であることをご存じですか。今、ピロティに掲示してある市教委のポスターにある遺跡現場が今は大きな貯水池となっています。地域教材としていろんな授業で活用できるのではないのでしょうか。（裏面）



弥生時代の遺跡（竪穴住居跡など）のあった場所に作られました。



この辺りは、大雨が降るとたびたび溝があふれる浸水地域でした（内水氾濫と言います）。この雨水貯水池ができると、一旦、あふれる水をここに貯めて、その後吉敷川の水位が下がったら、ポンプで水を戻すそうです。完成すると、地下に埋もれてしまい、地上からは分からなくなるでしょう。